

本時の主張

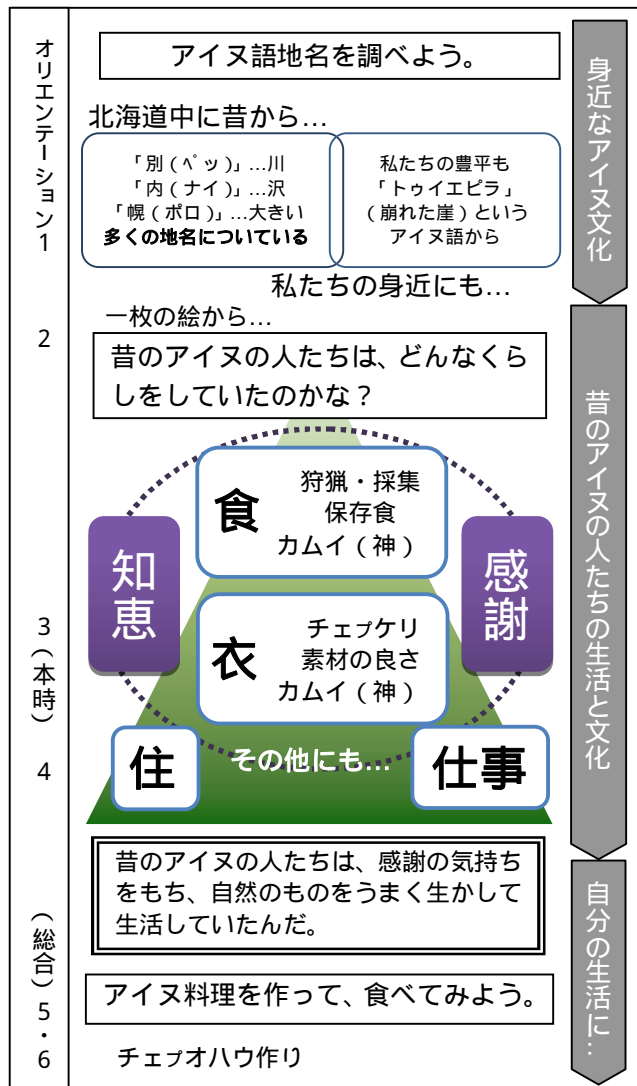
鮭の皮を靴に加工していた事実から、昔のアイヌの人たちは自然の恵みに感謝し、自然のものを上手くを生かして生活していたことに気づき、アイヌ文化の素晴らしさを実感する。

平成23年2月9日(水) 児童 4年1組 29名 授業者 高木 千晴

単元の目標

- ・昔のアイヌの人たちの生活や文化に関心をもって調べ、地域のよりよい発展について考えようとする。  
【関心・意欲・態度】
- ・昔のアイヌの人たちの生活の知恵や、自然に対する感謝の気持ちを考え、適切に表現している。  
【思考・判断・表現】
- ・昔のアイヌの人たちの生活や文化について、地図や写真・チェブケリなどの具体的資料から必要な情報を読み取り、まとめる。  
【技能】
- ・昔のアイヌの人たちの自然に対する感謝の気持ちや自然を生かす知恵に気付く。  
【知識・理解】

単元構成



視点 1 「ねらいの明確な活動」の中で「美しい心」がかよい合い 響き合いが生まれる 教材構成のあり方

北海道に住む私たちの生活の中には多くのアイヌ文化があるにもかかわらず、子どもたちは自分たちの身近にあるものやことがアイヌ文化によるものだと認識していない。特に、本州出身の保護者が多い本校の実態をふまえると、アイヌ文化を全く知らない子どもも多いと考えられる。

そこで、本単元の導入としてアイヌ語起源の北海道地名を取り上げることによって、自分たちの身近な存在であることに気付かせ、その後の問題を自分ごととしてとらえ、追求意欲が高まるように教材を構成した。

また、食生活とチェブケリを切り口に、アイヌの人たちの生活と文化について調べていく中で、「知恵」と「感謝」という2つをキーワードとして追求することで、子どもたちの調べた事例からアイヌの人たちの生活と文化全体を追求できるように教材構成を図った。

さらに、単元の終わりにチェブオハウ作りに取り組む。それまでの学習を生かしつつ、改めて「自分たちの生活とアイヌ文化のつながり」に気付くとともに、これからの自分たちの生活にも生かしていく姿勢を養いたい。

本単元の学習を通して、アイヌの人たちの生活や文化を体験的に学ぶ中で、異なる文化を尊重しようとする多文化共生に対する態度を育てるとともに、その学びを自分の生活に生かす姿勢を養うことで、子どもたち自身に「美しい心」を育みたい。

視点 2 「美しい心」のかよい合いを支え 響き合いを活性化 教師の指導のあり方

単元の導入で一枚の絵を提示し、昔のアイヌの人たちの生活と文化の全体像をとらえられるようにする。学習で取り上げる事例を断片的に学ぶのではなく、その事例を通してアイヌの人たちの生活と文化全体を総合的にとらえ、理解できるようにかかわりをもつ。

また、単元全体を通して具体物にふれるような体験的な活動を大切にしていくことで、実感を伴わせながらアイヌ文化の素晴らしさに気付かせていきたい。知識だけではなく、実感を伴った一人一人の考えが交流されることで互いの学びがより深まるとともに、異なる文化を尊重しようとする多文化共生に対する主体的な姿勢を育みたい。

## 本時の目標

- ・昔のアイヌの人たちが鮭を余すところなく使い、皮を靴に加工していた事実を追求することを通し、自然の恵みに感謝し、自然のものをうまく生かして生活していたことに気付き、アイヌの人たちの生活や文化に対する見方や考え方を高める。【思考・判断】

## 本時の展開 ( 3 / 6 )

### 【視点1】

#### 生活経験との ずれから追求

チェブケリを作る映像を見せ、何をしているところか考えさせる。「鮭は貴重な食料」という前時までの既習や自分たちの生活経験と、「鮭の皮で靴を作る」という事実とのずれから、問題意識を生む。

#### 知恵と感謝を キーワードにして 一般化を

チェブケリを前時と共通の「知恵」と「感謝」の2つのキーワードでまとめていくことで、「食」と「衣」の2つを結び付け、「このようなことは他のことにも当てはまるのではないか」という見方を生み、一般化に向かわせる。

#### 次時の活動への つながりを

鮭の皮とは反対に捨てていたウバユリの葉について考えさせることで、「これも自然に感謝する方法の一つだ」と見方や考え方を高めることで、「その他のことも調べてみたい」という意欲が高まるようにする。

## 本時の評価

- ・チェブケリを通して、昔のアイヌの人たちは自然の恵みに感謝し、自然のものをうまく生かして生活していたことに気付くことができたか。
- ・昔のアイヌの人たちの生活や文化に対する見方や考え方、次時の活動への追求意欲を高めることができたか。

### 【視点2】

#### 個に追求の見通し をもたせる指導

鮭の皮で靴を作っていた事実を知った時に発するつぶやきを大切に、2人ほどに発表させることで、全員が自分なりの考えをもてるようにする。

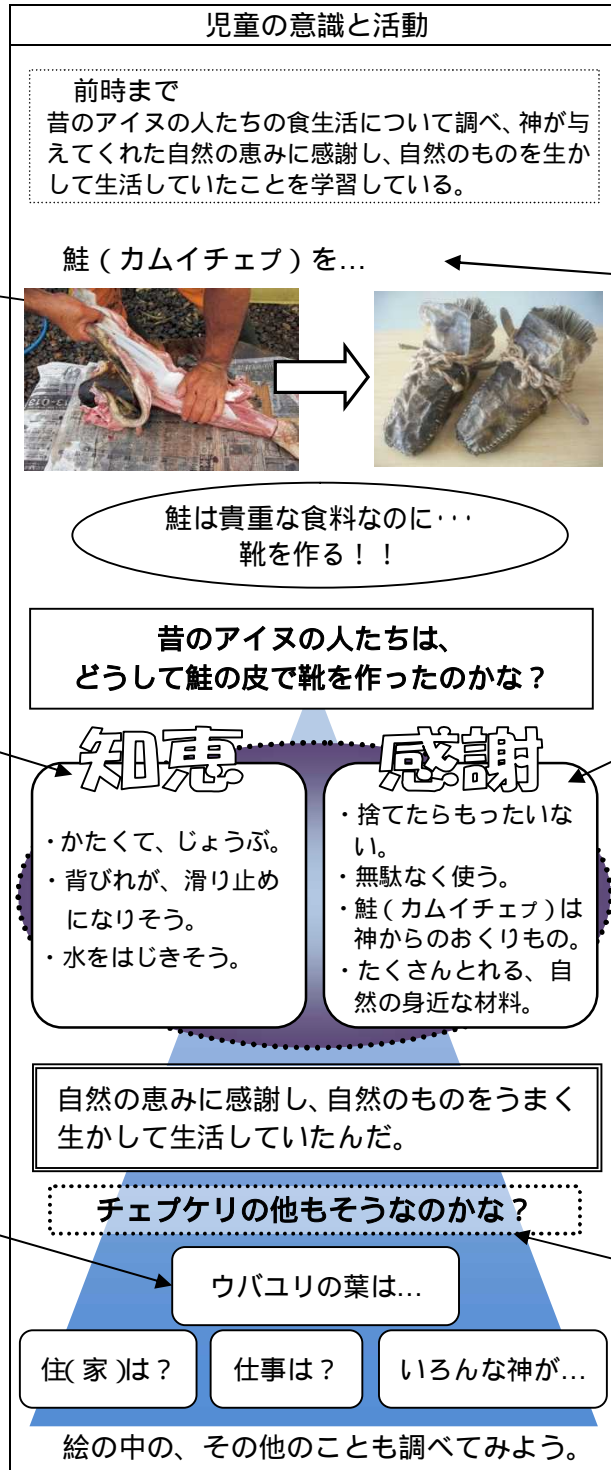
#### 実物に触れ、実感が 伴った追求を

実際にチェブケリを触ったり、当時の夏用の靴と比較したりすることで鮭の皮の素材のよさに視点が向くようにするとともに、実感を伴った考えが交流され、響き合いが生まれるようにする。

また、「もっと別のものの方がよいのではないか」とゆさぶることで、「鮭はたくさんとれるのから靴を作るのに適した身近な材料」という考えが深まるようにする。

#### 追求の視点を 変換し、見方や 考え方を高める

最後に単元の導入に提示した1枚の絵を見せ、「チェブケリの他にもそうなのかな」と問うことで追求の視点を変換し、一つの事例から学んだ見方や考え方が他のものへも広がるようにする。



# 板書計画

「アイヌの人たちの生活と文化」( 1 / 6 時間 )

## アイヌ語

- ・ 別 ( ペッ ) = 川
- ・ 内 ( ナイ ) = 沢
- ・ 幌 ( ポロ ) = 大きい

## 豊平も

トウヰピラ = くずれたがけ

## その他にも

- ・ ルスツ    ・ ニセコ
- ・ おたる    など

アイヌ語がもとになっている  
北海道の地名を調べよう！

## 北海道の地図

一人一人「別」「内」「幌」が付く地名を探して、  
見つけた地名をポストイットなどに書いて貼る。

- ・ 北海道中に！たくさん！  
だけど、はこだての近くは少ない
- ・ 「別」がつく地名が多い。  
川の近くに住んでいた？

古くからアイヌの人たちが、北海道中に  
住んでいた。

地図については画像を参照。

# 板書計画

「アイヌの人たちの生活と文化」( 2 / 6 時間 )



昔のアイヌの人たちの食べ物を調べよう！

## 知恵

- ・ 自然のものを
- ・ かり、漁、採集  
工夫した道具
- ・ 保存食  
冬にそなえて

くま、しか  
魚(さけ)  
山菜・木の实  
など

## 感謝

- ・ 神のおくりもの  
カムイチェブ...さけ  
チェブサンケカムイ
- ・ 必要な分だけ
- ・ 全部食べる



自然のめぐみに感謝し、自然のものをうまく食べて生活していた。



# 板書計画

「アイヌの人たちの生活と文化」( 3 / 6 時間 )



きちょうな食料

- ・ 山菜や木の实
- ・ くま、しか
- ・ 魚(さけ)

冬...保存食

昔のアイヌの人たちは、  
どうしてさけの皮でくつを作ったのかな？



## 知恵

- 冬にてきした素材
- ・ ザラザラ・背びれ  
すべり止め
  - ・ かたくて、じょうぶ
  - ・ 水をはじく



カムイチェプ

## 感謝

- ・ 捨てたらもったいない
- ・ むだなく使う
- ・ カムイチェプ  
神のおくりもの
- ・ たくさんとれる、  
身近な材料



自然のめぐみに感謝し、自然のものをう  
まく生かして生活していた。

